

校長室だより

春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

おこだてませんように

ぼくは いつも おこられる。
いえでも がっこうでも おこられる。

で始まるのは「おこだてませんように」というタイトルの絵本。

ぼくは1年生の男の子。お母ちゃんの留守中に妹を遊んでやろうとすると妹はわがままを言って泣き出す。泣いている妹を見て、母ちゃんはぼくを怒る。

友達がサッカーの仲間に入れてくれなかったの、二人にキックしてパンチをしたら、二人が泣きだした。泣いている二人を見て、先生はぼくを怒る。

一事が万事こんなふう。

ぼくは、母ちゃんにも先生にも褒めてもらいたいと思ってるんだけど、いつも怒られてばかり。

七夕の日に、ぼくは短冊に願い事を書いた。お友達は「サッカー選手になれますように」「ピアノが上手になりますように」と書いていたけど、ぼくは、一生懸命考えて、心を込めて書いた。

「おこだてませんように」

せんせいは じっと たんざくをみた。

せんせいは ずっと ぼくのおねがいをみていた。せんせいが ないていた。

「せんせい……。おこってばかりやったんやね。

……。ごめんね。ようかけたね。ほんまに ええ

おねがいやねえ。」

この絵本は、教師にとっても親にとっても必読の書だと思います。子どもは、どの子も親の笑顔が大好きだし、先生の笑顔に触れたいと思っているのです。



子どもの本当のことを知らないばかりに、大人はついつい怒ってばかり。

「おこだてませんように」と心の短冊に書いている子が、目の前にいないかな。



PHOTO BY MIOTO

おこだてませんように その2

この本の作者である「くすのきさん」は、七夕の笹に下げられた1枚の短冊を見て涙が止まらなかったそうです。その短冊に書かれていた言葉が「おこだてませんように」

この子は、「おこられませんかのように」と書きたかったのでしょうか。この子の心を思うと、切なくて、愛おしくてこのお話を書かれたそうです。

「くすのきさん」の感性に脱帽です。

私たちは、子どものこの一言に、この表情に、どれほど想像を巡らせることができているのでしょうか。

本当の人間の心にふれる



「うその世界に本当の人間の心を描いたのが小説」というのをラジオの番組で耳にしたことがあります。

「なるほど!」と思いました。だから本を読んで感動するのでしょうかね。「おこだてませんように」も然り。

いよいよ来週から夏休みに入ります。夏休みに入ったら、ゆっくり本を読もうと思います。そして、「本当の人間の心」にたくさんふれようと思います。

ちょっと早めですが、子どもたちにとってよい夏休みとなりますように!